

2023 年度
調査報告書

健康関心度とスポーツライフに関する調査

目次

I	研究概要	p.1
1	研究背景	
2	研究目的・仮説設定	
II	調査概要	p.2
1	調査方法	
2	調査項目	
3	担当者	
III	調査結果	p.3
1	単純集計	
2	健康関心度と属性および健康習慣の関連	
3	運動・スポーツ項目との関連および下位項目の分析	
IV	考察	p.21
1	健康無関心層の特徴とスポーツライフの実態	
2	健康無関心層へのアプローチに向けた可能性	
	参考文献	p.24
	付録	p.26

1 研究概要

1 研究背景

健康増進法の施行から 20 年が経過し、現在の日本における健康づくり政策が抱える大きな課題の一つに健康無関心層へのアプローチがある。2024 年度から開始される「健康日本 21（第三次）」に向けて、厚生労働省より 2023 年 5 月に告示された「国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な指針」によれば、これまでの「健康日本 21（第二次）」においては、1）一部の性・年齢階級について悪化している指標が存在すること、2）健康増進に関するデータの見える化・活用や国及び地方公共団体における PDCA サイクルの推進が不十分であること、などの課題が指摘されている。

このうち 1）で指摘された人々が、いわゆる「健康無関心層」と呼ばれる自己の生活習慣の改善に対する意思を持たず、政策的介入などのアプローチが困難な層を含むと推察される。その上で同指針では、誰一人取り残さない健康づくりの展開（Inclusion）と、より実効性をもつ取組の推進（Implementation）を通じて、国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な事項を示す、と記されている。また「第一 国民の健康の増進の推進に関する基本的な方向：三 社会環境の向上」において、健康に関心の薄いものを含む幅広い対象に向けた健康づくりを推進する、「同：四 ライフコースアプローチを踏まえた健康づくり」において、次世代の健康にも影響を及ぼす可能性がある、と記されたことも高齢者や若年者を中心とする健康無関心層を意識したものと推察される。

健康無関心層が注目される社会背景として健康格差の問題がある。経済的貧困や社会的孤立といった複数のリスクが集積しやすく、従来の健康政策で行われてきたポピュレーションアプローチに反応しにくい集団を“vulnerable population”と呼ぶが、健康無関心層も同様に位置づけることができる。彼らの健康格差の拡大防止・縮小に関しては、社会経済状況（Socio-Economic Status: SES）の低さや不平等が指摘され、単に関心の程度だけでなく、リスクの集積や介入に応じることができない事情を考慮しなければならない。同時に、その取り組みや介入による格差の拡大（Intervention-Generated Inequalities: IGI）への配慮も、政策提言においては極めて重要な視点である。

2 研究目的・仮説設定

こうした社会的背景を踏まえ、健康への関心について実態を把握する必要がある。従来の調査では主観的健康感や病気・怪我の有無といった健康状態を把握する項目や尺度が広く使用されてきたが、健康への関心については関心の有無を段階的に問うなど単純な形式での把握に留まっていた。健康への関心は一面的ではなく、とくに無関心層の特徴を明確にすることを目的とした場合にはより多角的な視点で質問を設定することが重要となる。そこで本研究では、小澤ら[2021]が開発した健康関心度尺度を用いて、健康への関心およびその関連要因について実態の把握と分析を行うことを目的とする。同尺度は健康無関心層の把

握および効果的なアプローチの検討に向けて作成されたものである。意識・意欲・価値観の3因子12項目で構成され、各因子4項目（いずれもリッカート法）が設定されている。

関連項目については小澤らの先行研究に基づき、基本的属性として性・年齢・職業・学歴（本人・父親・母親）・世帯年収、生活習慣として食習慣・運動習慣・飲酒習慣・喫煙習慣、健康への全般的関心（10段階）を設定した。またスポーツ関連項目として、過去1年間の運動・スポーツ実施における時間・きつさ（強度）・実施同伴者・種目、運動不足感、体力、睡眠の質、主観的健康感を設定した。なお予備項目を含んでおり、本報告書においてすべての項目に関する分析結果を示すものではない。

健康関心度との関連については、先行研究の結果を踏まえて以下の仮説を設定した。

仮説1：男性よりも女性のほうが、健康関心度が高い

仮説2：年齢が高いほうが、健康関心度が高い

仮説3：本人の学歴が高いほうが、健康関心度が高い

仮説4：世帯年収が高いほうが、健康関心度が高い

仮説5：定期的な運動が習慣化しているほうが、健康関心度が高い

仮説6：飲酒習慣がない人のほうが、健康関心度が高い

仮説7：喫煙習慣がない人のほうが、健康関心度が高い

II 調査概要

1 調査方法

本調査は研究目的および「スポーツライフに関する調査」2022の調査方法等を考慮し、インターネット調査で実施した。詳細は以下のとおりである。

- ・調査方法：WEB モニター調査
- ・抽出方法：調査会社保有のモニターから適格者を抽出
- ・対象条件：全国18歳以上の男女（性・年代均等割付）
- ・サンプル：2,520
- ・調査時期：2023年8月3日（木）～7日（月）

2 調査項目

研究目的および仮説に基づき、全20問を設定した。（末尾付録参照）

3 担当者

水野 陽介（笹川スポーツ財団 シニア政策オフィサー）

III 調査結果

1 単純集計

主な調査項目の単純集計結果を以下に示す。なお、本報告書におけるデータの集計および統計分析には IBM SPSS Statistics ver.28 を使用した。

1-1 基本的属性

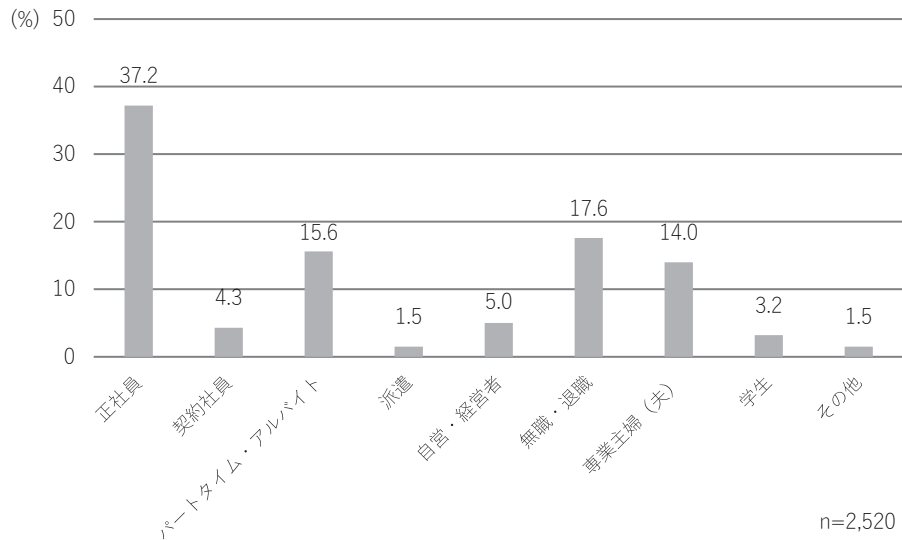
本調査では対象条件を均等割付としたため、男女および年代については各カテゴリーの割合が等分となる。ただし、年代についてはモニターの性質上、10代（18-19歳）のサンプル数が少ないため、20代に統合して集計した（表III-1-1）。

表III-1-1 度数分布表（性・年代）

		n	%
性	男性	1260	50.0
	女性	1260	50.0
	合計	2520	100
年代	18-19歳	31	1.2
	20-29歳	389	15.4
	30-39歳	420	16.7
	40-49歳	420	16.7
	50-59歳	420	16.7
	60-69歳	420	16.7
	70歳以上	420	16.7
	合計	2520	100

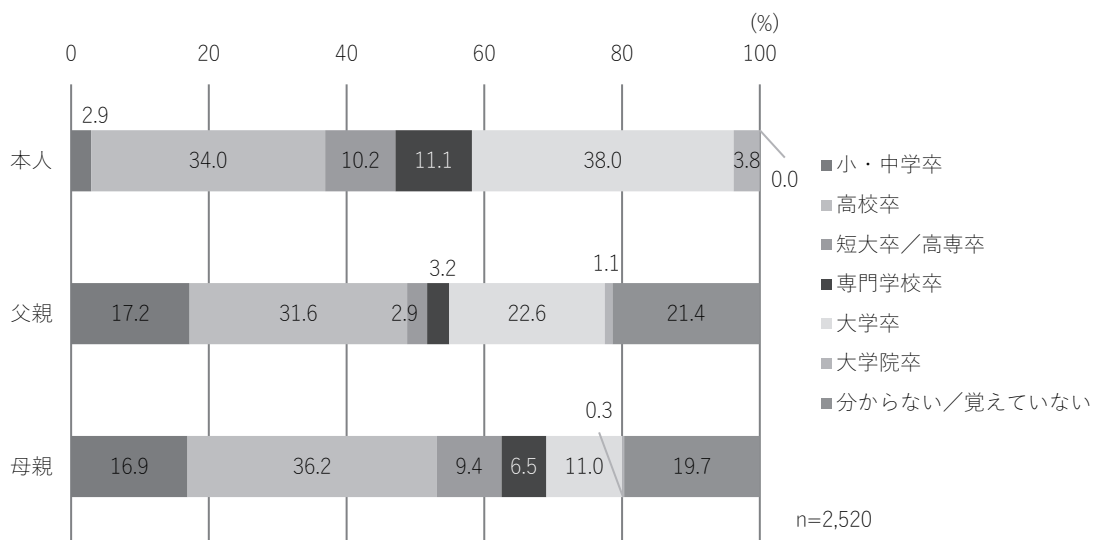
注) 構成比は小数点以下第2位を四捨五入したため、加算値は合計100%とならない場合がある。

就業分類については「正社員」37.2%が最も多く、「無職・退職」17.6%を除くと「パートタイム・アルバイト」15.6%、「専業主婦（夫）」14.0%が続いた（図Ⅲ-1-1）。



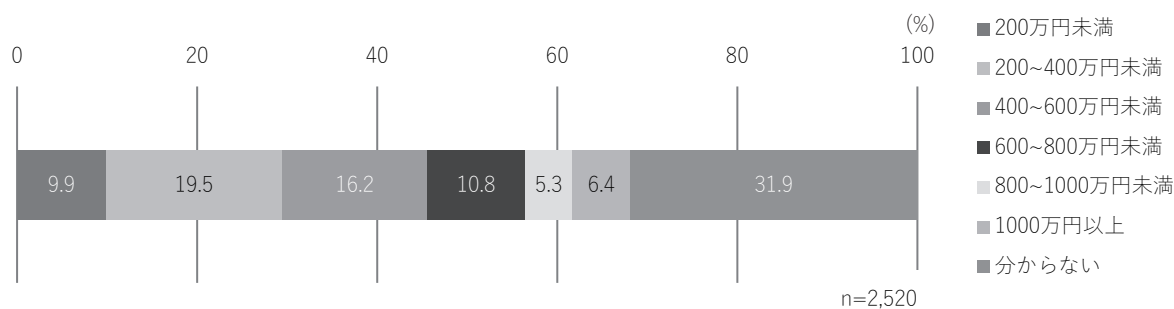
図Ⅲ-1-1 就業分類

学歴については、本人は「大学卒」38.0%、父親/母親は「高校卒」31.6%/36.2%がそれぞれ最も多かった。なお、「大学卒」については父親のほうが多く、「短大卒／高専卒」および「専門学校卒」については母親のほうが多かった（図Ⅲ-1-2）。



図Ⅲ-1-2 学歴（本人・父親・母親）

世帯年収については、「分からない」31.9%が最も多く、「200～400万円未満」19.5%、「400～600万円未満」16.2%と続いた（図Ⅲ-1-3）。なお、「分からない」を除く回答者ベースでは600万円未満が約67%を占めた。



図Ⅲ-1-3 世帯年収

1-2 健康関心度尺度

前述のとおり、本調査では小澤ら[2021]が開発した健康関心度尺度を用いた。同尺度を構成する合計12の下位項目は以下のとおりである。

〈健康への意識：4項目〉

- 1 私は健康への意識が高い方だ
- 2 自分の健康に関する情報に興味がある
- 3 健康状態の変化に気を付けている
- 4 周りの人より私は健康を意識している

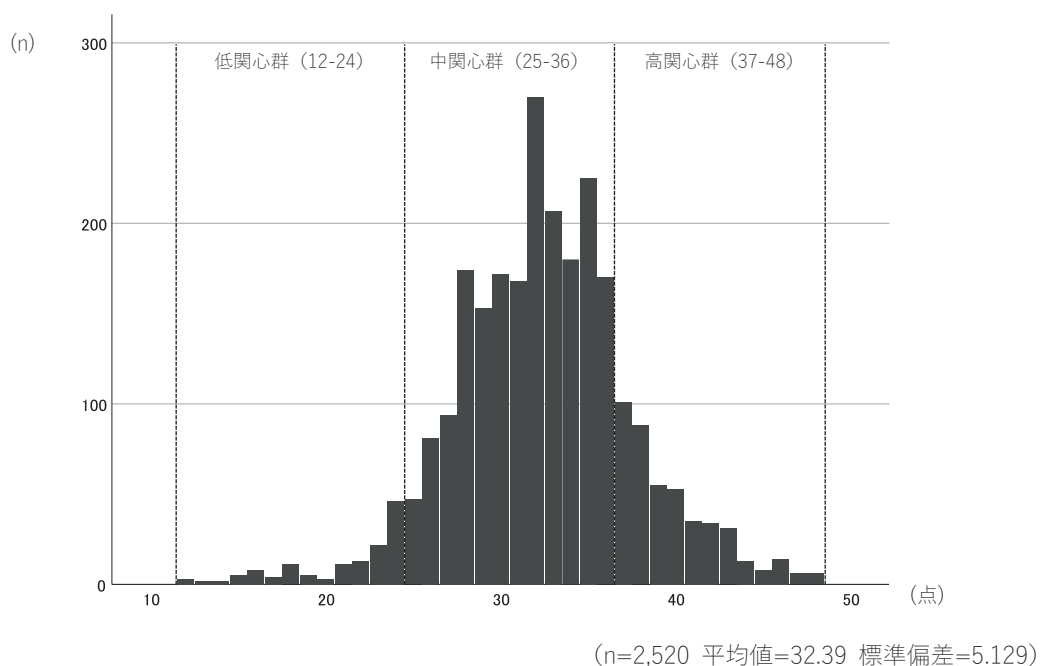
〈健康への意欲：4項目〉

- 5 健康のためにはある程度時間を割くべきだ
- 6 健康のためにはある程度お金をかけてもよい
- 7 健康を第一に考えて暮らしたい
- 8 健康でいるためなら何でもする

〈健康への価値観：4項目〉

- 9 健康よりも遊びや趣味が大切だ
- 10 健康よりも仕事や収入が大切だ
- 11 病気を予防するより、病気になったら治療すればよい
- 12 病気になったときだけ自分の健康が心配だ

以上の12項目の合計得点（range:12-48）を集計した結果を以下に示す（図Ⅲ-1-4）。



図III-1-4 健康関心度尺度（合計得点）のヒストグラム

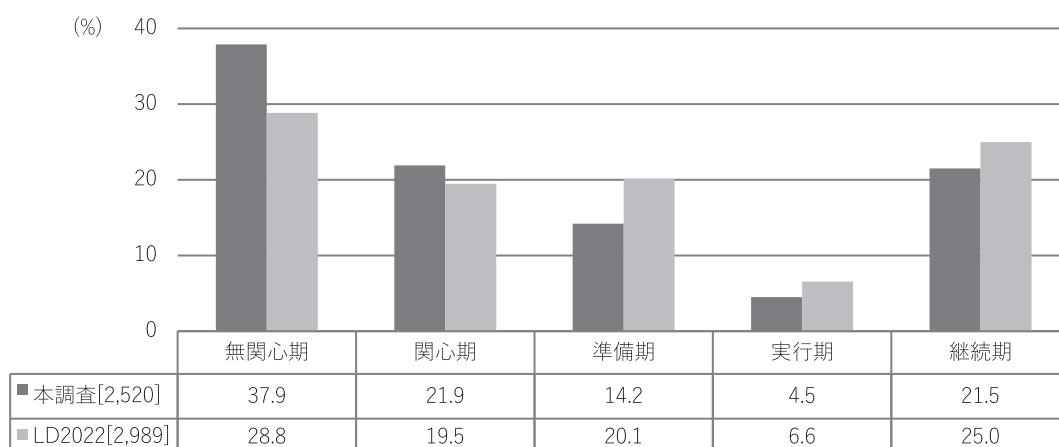
およそ正規分布に従うものの、山が高くやや左に裾を引く分布となった。得点範囲を3区分し、それぞれ低関心群（12-24点）・中関心群（25-36点）・高関心群（37-48点）とすると、それぞれの割合は低関心群 5.4%・中関心群 77.0%・高関心群 17.6%であった。

1-3 「スポーツライフに関する調査」2022 との比較

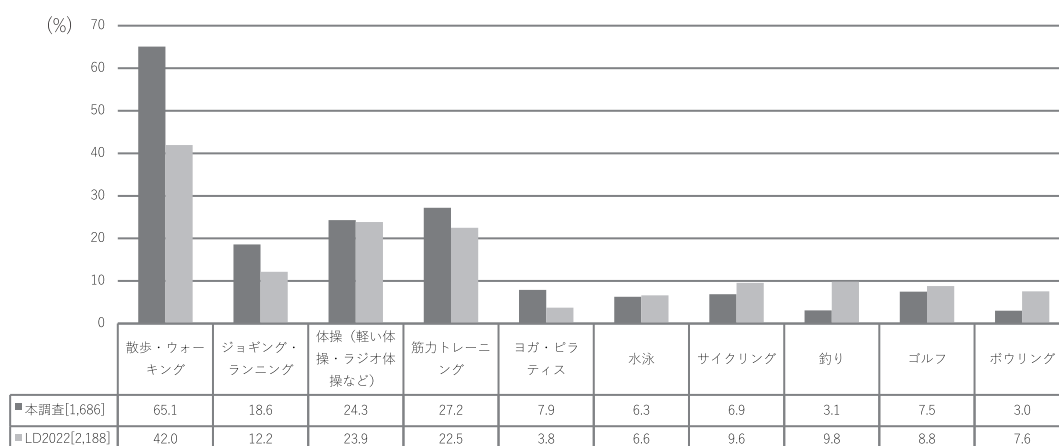
「スポーツライフに関する調査」2022 で実施した一部の項目について、本調査の集計結果と比較した。調査方法の違いについては以下のとおりである（表III-1-2）。訪問留置法による「スポーツライフに関する調査」2022 に対し、本調査は同様の対象条件でインターネット調査を行った。登録モニター（全国 354 万人：2023 年 8 月時点）や回答デバイスおよび謝礼によるインセンティブの違いは考慮すべきであるが、サンプルの得にくい若年層および高齢層をカバーするため性・年代を均等割付で抽出し、サンプルサイズは 2,520 とした。抽出方法の特性上、本調査データの集計値および検定結果の解釈にあたっては、必ずしも代表性を担保するものではない点にも留意が必要である。また以下では、両調査の方法およびデータについて比較したが、あくまでも本調査を相対化させる目的に留まり、「スポーツライフに関する調査」2022 の調査方法およびデータの傾向等への言及を意図するものではない。

表 III-1-2 調査概要

健康関心度とスポーツライフに関する調査		スポーツライフに関する調査 2022 (LD2022)	
調査時期	2023年8月	2022年6～7月	
目標母集団	全国の市町村に居住する満18歳以上の男女		
枠母集団	WEB調査会社(A社)登録モニター	—	
抽出方法	割付(性×年代で12セル)の各セルの条件に合致する者を抽出してランダム配信	地域×都市規模で層化し、各層の人口に合わせて地点を比例配分し、各地点内の性×年代の比率に合わせて抽出(割当法)	
調査方法 (回答デバイス)	インターネット調査 (PC/タブレット:12.5% スマートフォン:87.5%)	訪問留置法(質問票)	
サンプル数	2,520	3,000	

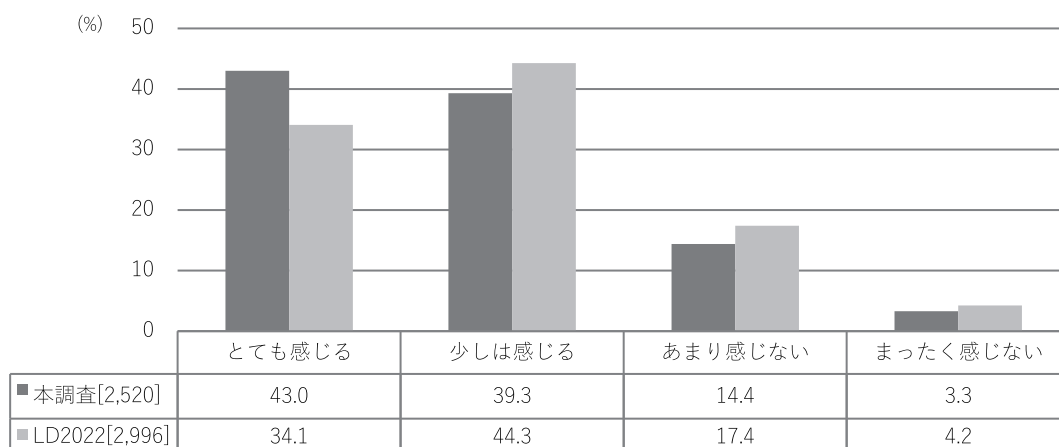


図III-1-5 運動・スポーツ実施状況（行動変容ステージ）

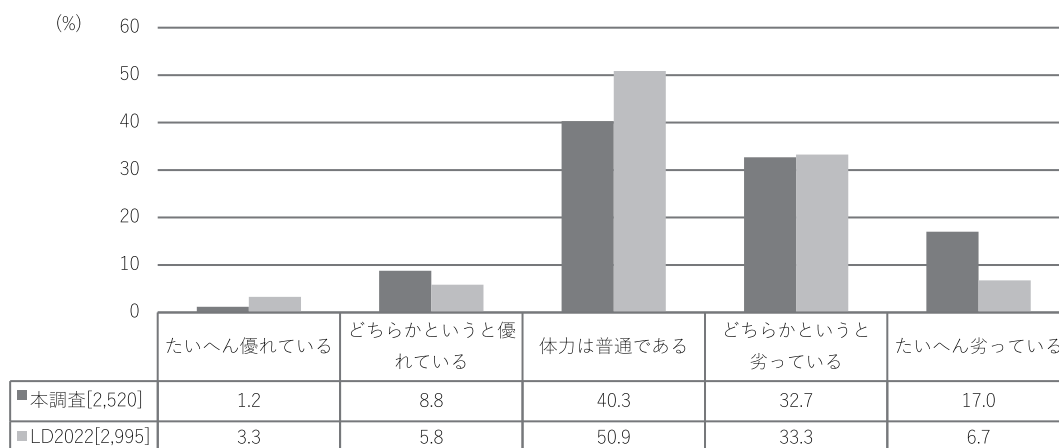


図III-1-6 過去1年間の運動・スポーツ実施種目

運動・スポーツに関する行動面については次の2項目を用いた。運動・スポーツ実施状況（行動変容ステージ）については「ここ1ヶ月間、運動・スポーツを行っていない。また、これから先もするつもりはない。」：無関心期、「ここ1ヶ月間、運動・スポーツを行っていない。しかし、近い将来（6ヶ月以内）に始めようと思っている。」：関心期、「ここ1ヶ月間、運動・スポーツを行っている。しかし、週2回未満である。」：準備期、「ここ1ヶ月間、週2回以上、運動・スポーツを行っている。しかし、始めてから6ヶ月以内である。」：実行期、「ここ1ヶ月間、週2回以上、運動・スポーツを行っている。また、6ヶ月以上継続している。」：継続期、として行動変容ステージ別にそれぞれを示す。比較の結果、最も差が大きかったのは「無関心期」で本調査のほうが9.1ポイント高かった（図III-1-5）。また過去1年間の運動・スポーツ実施種目の比較では、最も差が大きかったのは「散歩・ウォーキング」で本調査のほうが23.1ポイント高かった（図III-1-6）。



図III-1-7 運動不足感



図III-1-8 体力の自己評価

運動・スポーツに関する意識面については次の2項目を用いた。運動不足感の比較では、最も差が大きかったのは「とても感じる」で本調査のほうが8.9ポイント高かった（図III-1-7）。体力の自己評価の比較では、最も差が大きかったのは「体力は普通である」で本調査のほうが10.6ポイント低く、開きがみられた（図III-1-8）。

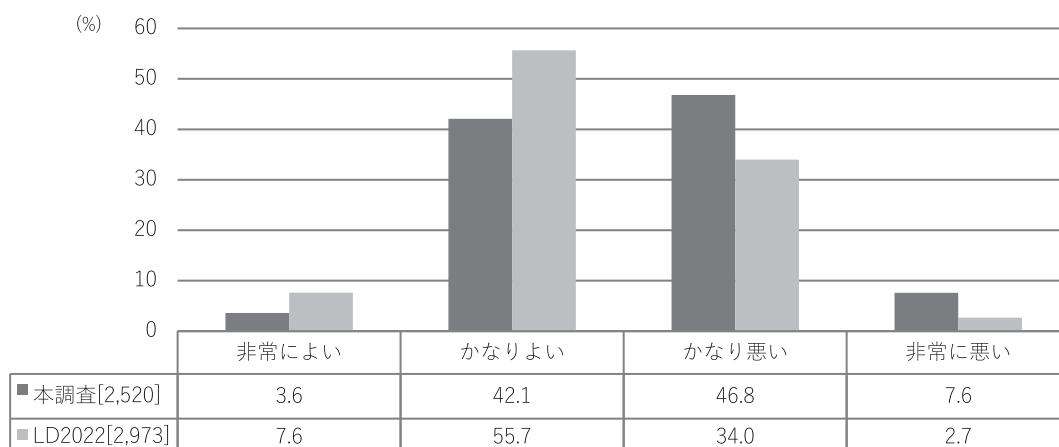


図 III-1-9 睡眠の質の自己評価

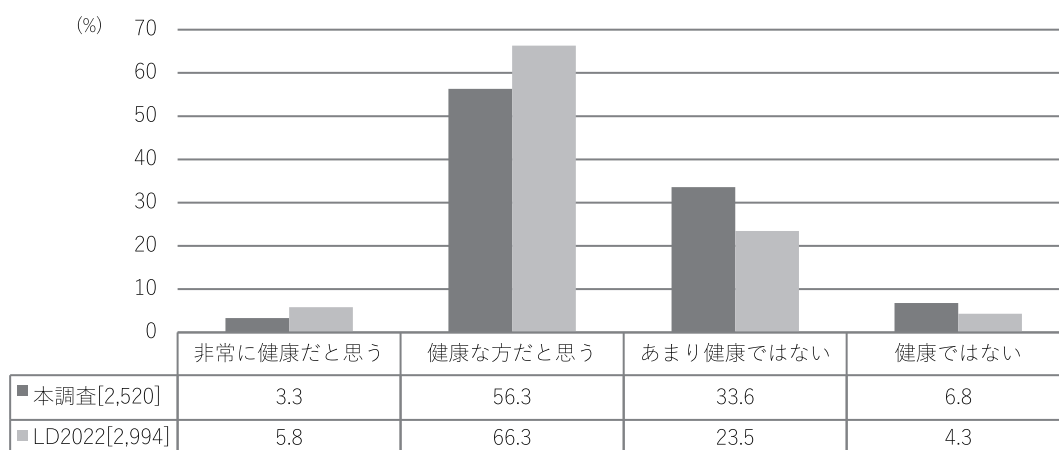


図 III-1-10 主観的健康感

他の関連項目については次の 2 項目を用いた。睡眠の質の自己評価の比較では、最も差が大きかったのは「かなりよい」で 13.6 ポイント低く、一方で「かなり悪い」については 12.8 ポイント高く、開きがみられた（図 III-1-9）。主観的健康感の比較では、「健康な方だと思う」で 10 ポイント低く、「あまり健康ではない」で 10.1 ポイント高かった（図 III-1-10）。

2 健康関心度と属性および健康習慣の関連

健康関心度尺度の合計得点 (range: 12-48) を用いて属性および健康習慣との関連を分析した (表III-2-1)。本調査では、性、年代、本人学歴、就業状況、世帯年収および運動・スポーツ実施状況、喫煙習慣と健康関心度尺度との間で関連が認められた。基本属性および社会経済的属性においてはすべての変数で有意差がみられたが、健康習慣に関しては飲酒習慣との関連は認められなかった。以下、各変数について小澤ら[2021]の調査結果と比較しながら整理する。

性別では、男性よりも女性のほうが健康関心度は高く、小澤らの調査と同様の傾向がみられた。年代別では概ね年代に応じて高まるが、小澤らの調査では含まれていない 18-29 歳を含むデータから分析した結果、30 代の健康関心度は 20 代以下よりも低かった。本人学歴による差は小澤らの調査では認められていないが、同じく大卒以上と大卒未満で比較したところ、本調査では大卒以上のほうが健康関心度は高かった。就業状況別では、小澤らの研究を参照しつつ、学生等を含む 7 カテゴリーで分析を行った。このうち健康関心度の平均値が最も高かったのは「専業主婦 (夫)」 33.88 ± 4.82 、最も低かったのは「学生」 31.49 ± 5.13 、勤労者の中では「正社員」 31.67 ± 4.88 であった。世帯年収別 (「分からない」を除く) で最も高かった層は「800 万円以上」 33.36 ± 4.76 、最も低かったのは「400 万円以上 800 万円未満」 32.34 ± 4.89 であった。健康習慣については、一部に「スポーツライフに関する調査」2022 で使用されている変数を用いたため単純に比較できないが、概ね小澤らの調査と同様の傾向がみられた。運動習慣は行動変容ステージが高いほど、喫煙習慣はなしのほうが健康関心度は高かった。なお、同表では割愛したが、食習慣についても 3 項目 (規則性・バランス・間食の有無) すべてで関連が認められた。

以上の結果から、健康関心度との関連について設定した仮説の検証結果は以下のとおりであった。

仮説 1 : 男性よりも女性のほうが、健康関心度が高い	→○
仮説 2 : 年齢が高いほうが、健康関心度が高い	→○
仮説 3 : 本人の学歴が高いほうが、健康関心度が高い	→○
仮説 4 : 世帯年収が高いほうが、健康関心度が高い	→△
仮説 5 : 定期的な運動が習慣化しているほうが、健康関心度が高い	→○
仮説 6 : 飲酒習慣がない人のほうが、健康関心度が高い	→×
仮説 7 : 喫煙習慣がない人のほうが、健康関心度が高い	→○

本報告書で設定した仮説は概ね支持された。仮説 4 については高所得層で健康関心度が高いものの、中所得層では低所得層よりも健康関心度が低かったため、順相関として完全に支持されたとは言えない。仮説 6 については先行研究でも関連は認められておらず、本調査においても健康関心度に対する飲酒習慣の影響はみられなかった。

表III-2-1 健康関心度尺度（合計得点）と属性および健康習慣との関連

		<i>n</i>	(%)	<i>M</i>	(<i>SD</i>)	<i>p</i>		
性	男性	1,260	(50.0)	32.04	(5.29)	<0.001		
	女性	1,260	(50.0)	32.73	(4.94)			
年代	18-19 歳	31	(1.2)	31.26	(3.77)	<0.001		
	20-29 歳	389	(15.4)	31.10	(5.43)			
	30-39 歳	420	(16.7)	31.04	(4.82)			
	40-49 歳	420	(16.7)	31.52	(5.15)			
	50-59 歳	420	(16.7)	32.04	(4.81)			
	60-69 歳	420	(16.7)	33.74	(4.80)			
	70 歳以上	420	(16.7)	34.86	(4.65)			
本人学歴	大卒以上	1,053	(41.8)	32.74	(5.09)	<0.001		
	大卒未満	1,467	(58.2)	32.13	(5.14)			
就業状況	正社員	938	(37.2)	31.67	(4.88)	<0.001		
	非正規社員	540	(21.4)	32.12	(5.24)			
	自営・経営者	126	(5.0)	32.44	(5.53)			
	専業主婦（夫）	354	(14.0)	33.88	(4.82)			
	無職・退職	444	(17.6)	33.11	(5.30)			
	学生	80	(3.2)	31.49	(5.13)			
	その他	38	(1.5)	33.16	(5.18)			
世帯年収	400 万円未満	741	(29.4)	32.43	(5.37)	<0.001		
	400 万円以上 800 万円未満	682	(27.1)	32.34	(4.89)			
	800 万円以上	294	(11.7)	33.36	(4.76)			
	分からない	803	(31.9)	32.03	(5.19)			
運動・スポーツ実施状況 (行動変容ステージ)	ここ 1 ヶ月間、運動・スポーツを行っていない。 また、これから先もするつもりはない。（無関心期）	956	(37.9)	30.58	(5.10)	<0.001		
	ここ 1 ヶ月間、運動・スポーツを行っていない。しかし、 近い将来（6 ヶ月以内）に始めようと思っている。（関心期）	551	(21.9)	32.92	(4.71)			
	ここ 1 ヶ月間、運動・スポーツを行っている。 しかし、週 2 回未満である。（準備期）	357	(14.2)	32.96	(4.65)			
	ここ 1 ヶ月間、週 2 回以上、運動・スポーツを行っている。 しかし、始めてから 6 ヶ月以内である。（実行期）	114	(4.5)	33.17	(4.15)			
	ここ 1 ヶ月間、週 2 回以上、運動・スポーツを行っている。 また、6 ヶ月以上継続している。（継続期）	542	(21.5)	34.47	(5.05)			
	飲酒習慣	あり	1,158	(46.0)	32.34		(5.24)	0.697
	なし（やめた・ほとんど飲まない）	1,362	(54.0)	32.42	(5.04)			
喫煙習慣	あり	1,774	(70.4)	32.68	(5.12)	<0.001		
	なし（吸わない）	746	(29.6)	31.69	(5.08)			

注) 性、飲酒習慣、喫煙習慣は t 検定、年代は一元配置分散分析、本人学歴、就業状況、世帯年収、運動・スポーツ実施状況は性別・年齢を共変量とした共分散分析による p 値

また、健康関心度尺度における 12 の下位項目を因子ごとに合計した因子得点 (range: 4-16) についても属性との関連を分析した (表 III-2-2)。性別では、健康への意欲と健康への価値観で有意差が認められ、ともに女性のほうが男性よりも高かった。一方で、健康への意識について性差は認められなかった。年代、本人学歴、就業状況および世帯年収別では 3 因子いずれも有意差が認められた。年代別で平均値が最も低かったのは、健康への意識が「30-39 歳」 10.00 ± 2.45 、健康への意欲が「50-59 歳」 10.25 ± 2.15 、健康への価値観が「20-29 歳」 9.95 ± 2.34 と、因子ごとに異なる傾向がみられた。本人学歴別では健康への意識と意欲については大卒以上のほうが大卒未満より高かったが、健康への価値観については大卒未満のほうが大卒以上よりも高かった。就業状況別で平均値が最も低かったのは、健康への意識が「正社員」 10.49 ± 2.42 、健康への意欲が「非正規社員」 10.43 ± 2.17 、健康への価値観が「学生」 10.1 ± 2.50 と、年代と同じく因子ごとに異なる傾向がみられた。世帯年収別 (「分からないを除く) で平均値が最も低かったのは、健康への意識が「400 万円以上 800 万円未満」 10.72 ± 2.28 、健康への意欲が「400 万円未満」 10.52 ± 2.16 、健康への価値観が「400 万円以上 800 万円未満」 10.88 ± 2.15 であり、3 因子のうち健康への意欲については、世帯年収が下がるほど因子得点の平均値も低かった。

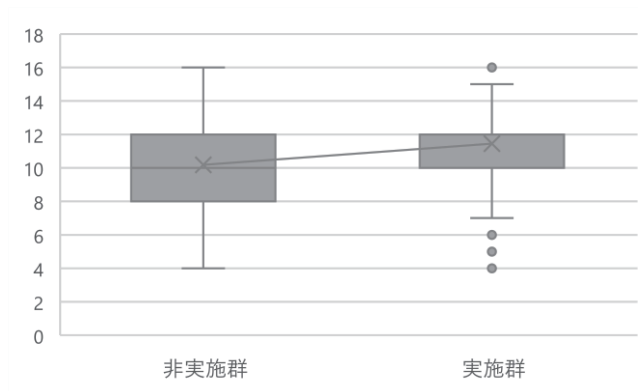
続いて、運動実施状況によって因子得点の差がみられるかを検証するため、行動変容ステージの「無関心期」と「関心期」を合わせて『非実施群』、「準備期」・「実行期」・「継続期」を合わせて『実施群』とした。3 つの因子得点ごとに両群の平均値に差があるかを検証するため、非実施群=1/実施群=0 とするダミー変数を用いて Welch 検定を行った。なお、差の大きさを示す効果量の測定には Cohen の d を使用した。

各因子得点の分布を群ごとに箱ひげ図で示した (図 III-2-1~III-2-3)。非実施群と実施群の各得点データを下から小さい順に並べた分布を 25% ずつに 4 区分し、中央の箱がデータの真ん中 50% の分布を表している。箱内の×印が平均値、横線が中央値をそれぞれ示している。また、上の横線 (ひげ) が最大値、下の横線が最小値である。この結果から、健康への意識得点および意欲得点は、ともに運動実施群よりも運動非実施群のほうが低く、ばらつきが大きいことがわかる。一方で価値観得点は、運動実施群と非実施群の間で有意差はみられなかった。したがって、運動を行っている人たちは行っていない人たちに比べて健康への意識および意欲は高かったが、価値観には違いがみられなかった。

表III-2-2 健康関心度尺度（因子得点）と属性との関連

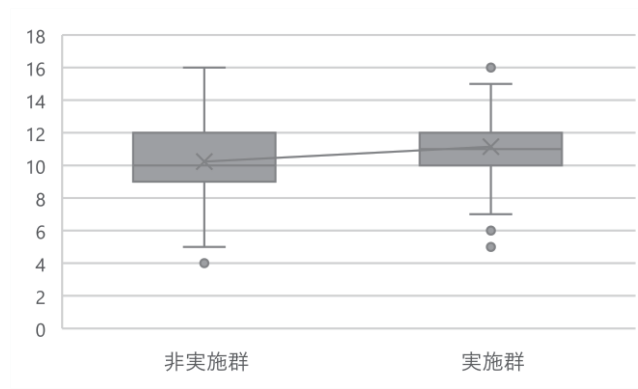
	第1因子（健康への意識）			第2因子（健康への意欲）			第3因子（健康への価値観）			
	n	(%)	M (SD)	n	(%)	M (SD)	n	(%)	M (SD)	p
性	1,260	(50.0)	10.63 (2.50)	1,260	(50.0)	10.52 (2.34)	1,260	(50.0)	10.89 (2.18)	<0.001
男性	1,260	(50.0)	10.75 (2.37)	1,260	(50.0)	10.69 (2.08)	1,260	(50.0)	11.29 (2.16)	
女性	31	(1.2)	10.32 (2.23)	31	(1.2)	10.65 (2.03)	31	(1.2)	10.29 (1.92)	<0.001
年代	389	(15.4)	10.40 (2.70)	389	(15.4)	10.75 (2.58)	389	(15.4)	9.95 (2.34)	
18-19 歳	420	(16.7)	10.00 (2.45)	420	(16.7)	10.34 (2.23)	420	(16.7)	10.69 (2.16)	
20-29 歳	420	(16.7)	10.25 (2.47)	420	(16.7)	10.28 (2.27)	420	(16.7)	10.99 (2.18)	
30-39 歳	420	(16.7)	10.59 (2.32)	420	(16.7)	10.25 (2.15)	420	(16.7)	11.20 (1.94)	
40-49 歳	420	(16.7)	11.23 (2.18)	420	(16.7)	10.84 (1.98)	420	(16.7)	11.67 (1.95)	
50-59 歳	420	(16.7)	11.67 (2.08)	420	(16.7)	11.16 (1.92)	420	(16.7)	12.04 (1.89)	
60-69 歳	1,053	(41.8)	10.89 (2.40)	1,053	(41.8)	10.84 (2.17)	1,053	(41.8)	11.01 (2.22)	<0.001
70 歳以上	1,467	(58.2)	10.55 (2.45)	1,467	(58.2)	10.43 (2.23)	1,467	(58.2)	11.15 (2.15)	
本人学歴	938	(37.2)	10.49 (2.42)	938	(37.2)	10.55 (2.25)	938	(37.2)	10.63 (2.14)	<0.001
大卒以上	540	(21.4)	10.54 (2.46)	540	(21.4)	10.43 (2.17)	540	(21.4)	11.14 (2.21)	
大卒未満	126	(5.0)	10.8 (2.59)	126	(5.0)	10.59 (2.21)	126	(5.0)	11.06 (2.26)	
就業状況	354	(14.0)	11.12 (2.29)	354	(14.0)	10.95 (2.04)	354	(14.0)	11.81 (1.99)	
正社員	444	(17.6)	10.91 (2.47)	444	(17.6)	10.61 (2.30)	444	(17.6)	11.59 (2.02)	
非正規社員	80	(3.2)	10.56 (2.47)	80	(3.2)	10.82 (2.39)	80	(3.2)	10.1 (2.50)	
自営・経営者	38	(1.5)	11.11 (2.15)	38	(1.5)	10.63 (1.98)	38	(1.5)	11.42 (1.97)	
専業主婦（夫）	741	(29.4)	10.81 (2.51)	741	(29.4)	10.52 (2.16)	741	(29.4)	11.1 (2.24)	<0.001
無職・退職	682	(27.1)	10.72 (2.28)	682	(27.1)	10.74 (2.16)	682	(27.1)	10.88 (2.15)	
学生	294	(11.7)	11.18 (2.25)	294	(11.7)	11.1 (2.0)	294	(11.7)	11.08 (2.15)	
その他	803	(31.9)	10.37 (2.52)	803	(31.9)	10.38 (2.35)	803	(31.9)	11.27 (2.15)	
世帯年収	400万円未満			400万円未満			400万円未満			
400万円以上800万円未満	800万円以上			400万円以上800万円未満			800万円以上			
分らない				分らない						

注) 性はt検定、年代は一元配置分散分析、本人学歴、就業状況、世帯年収は性別・年齢を共変量とした共分散分析によるp値



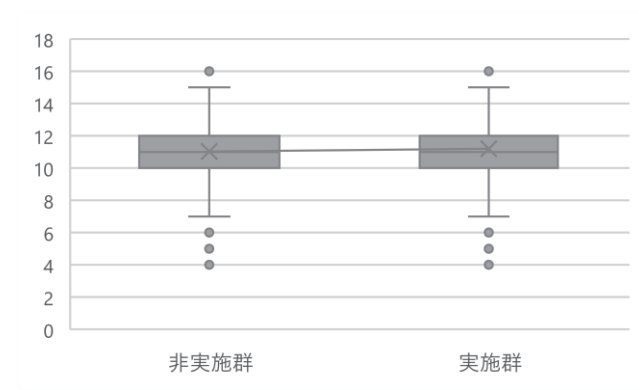
$t(2520)=13.469, p<0.001, d=0.539$

図 III-2-1 健康意識得点の平均値の差 [運動非実施ダミー]



$t(2520)=10.505, p<0.001, d=0.421$

図 III-2-2 健康意欲得点の平均値の差 [運動非実施ダミー]



$t(2520)=1.947, p=0.052$

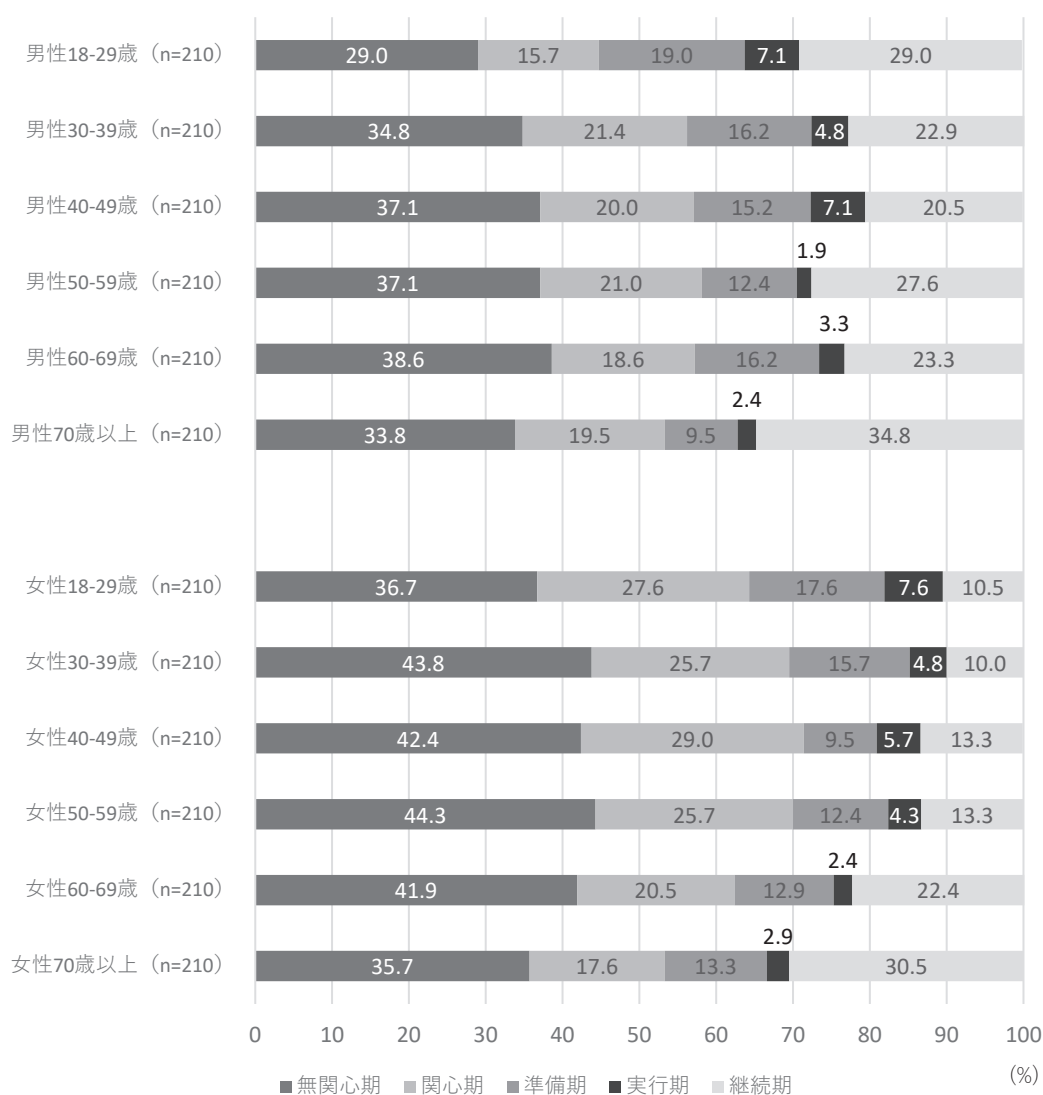
図 III-2-3 健康価値観得点の平均値の差 [運動非実施ダミー]

3 運動・スポーツ項目との関連および下位項目の分析

3-1 運動・スポーツ項目

運動・スポーツ実施状況について性・年代別に集計し、カイ 2 乗検定を行った（図 III-3-1）。関連の大きさを示す指標には Cramer の V を用いた。

性・年代と運動・スポーツ実施状況の間には有意差がみられた。男女ともに 70 代以上で「継続期」が多く、男性では 18-29 歳と 50 代も比較的が多い。女性では 50 代以下で「継続期」が少なく、とくに 30 代以下の若年層で少なさが目立った。

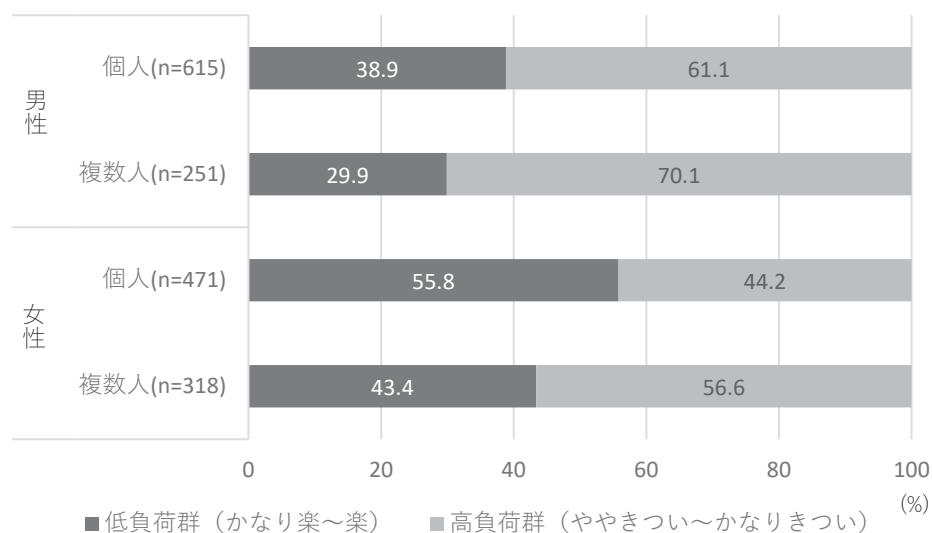


$\chi^2=139.4, df=44, p<0.001, V=0.118$

図 III-3-1 運動・スポーツ実施状況（性・年代別）

続いて、運動・スポーツのきつさ（強度）と同伴者の有無との関連について性別に集計し、カイ2乗検定を行った（図III-3-2）。連関の大きさを示す指標には ϕ （ファイ）係数を用いた。

運動・スポーツのきつさは「かなり楽である」「楽である」を合計した『低負荷群』、「ややきつい」「きつい」「かなりきつい」を合計した『高負荷群』の2区分とした。また、同伴者は人数に応じて「ひとりで」を『個人』、「ひとりで」および「その他」以外の選択肢を合計した『複数人』の2区分とした。検定の結果、男女ともに有意差がみられた。男性では個人・複数人ともに高負荷群が多いが、複数人のほうがより高負荷群が多かった。一方で女性では同伴者の有無によって傾向が異なり、個人は低負荷群、複数人は高負荷群が多かった。



男性: $\chi^2=6.2$, $df=1$, $p<0.05$, $\phi=0.085$

女性: $\chi^2=11.8$, $df=1$, $p<0.001$, $\phi=0.122$

図III-3-2 運動・スポーツのきつさと同伴者の有無との関連（性別）

3-2 下位項目のクロス集計

健康関心度尺度における12の下位項目との関連要因について、性別・年代・学歴（本人および親）・世帯年収とのクロス集計を行い、 χ^2 検定の結果をまとめた（表III-3-1）。なお、学歴については「中学・高校卒」「短大・高専卒」「大学・大学院卒」の3区分、世帯年収は「分からない」を除く回答者ベースを用いて集計した。

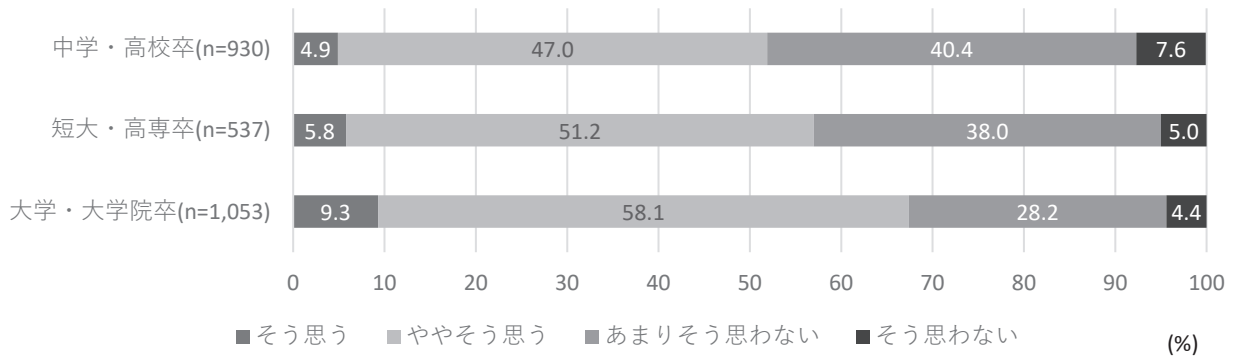
表III-3-1 健康関心度尺度：下位項目と関連要因の χ^2 検定（p値）

健康関心度尺度	性別	年代	本人学歴 (3区分)	母親学歴 (3区分)	父親学歴 (3区分)	世帯年収 (分からない除く)	世帯年収 (2区分)
意識							
私は健康への意識が高い方だ	0.992	<0.001 ***	0.004 **	0.271	0.029 *	0.091	0.219
自分の健康に関する情報に興味がある	0.285	<0.001 ***	0.027 *	0.48	0.081	0.159	0.399
健康状態の変化に気を付けている	0.003 **	<0.001 ***	0.356	0.736	0.18	0.521	0.236
周りの人より私は健康を意識している	0.768	<0.001 ***	0.003 **	0.117	0.033 *	0.091	0.08
意欲							
健康のためにはある程度時間を割くべきだ	0.03 *	<0.001 ***	0.002 **	0.461	0.006 **	0.489	0.692
健康のためにはある程度お金をかけてもよい	0.053	<0.001 ***	<0.001 ***	<0.001 ***	<0.001 ***	<0.001 ***	<0.001 ***
健康を第一に考えて暮らしたい	<0.001 ***	<0.001 ***	0.352	0.668	0.029 *	0.175	0.41
健康でいるためなら何でもする	0.253	<0.001 ***	0.113	0.006 **	0.063	0.566	0.17
価値観							
健康よりも遊びや趣味が大切だ	0.03 *	<0.001 ***	0.03 *	<0.001 ***	<0.001 ***	0.003 **	0.002 **
健康よりも仕事や収入が大切だ	0.038 *	<0.001 ***	0.536	0.006 **	0.024 *	0.003 **	<0.001 ***
病気を予防するより、病気になったら治療すればよい	<0.001 ***	<0.001 ***	0.097	0.001 **	0.002 **	0.593	0.124
病気になったときだけ自分の健康が心配だ	0.008 **	<0.001 ***	0.17	0.002 **	0.006 **	0.215	0.016 *

注 *: $p<0.05$, **: $p<0.01$, ***: $p<0.001$

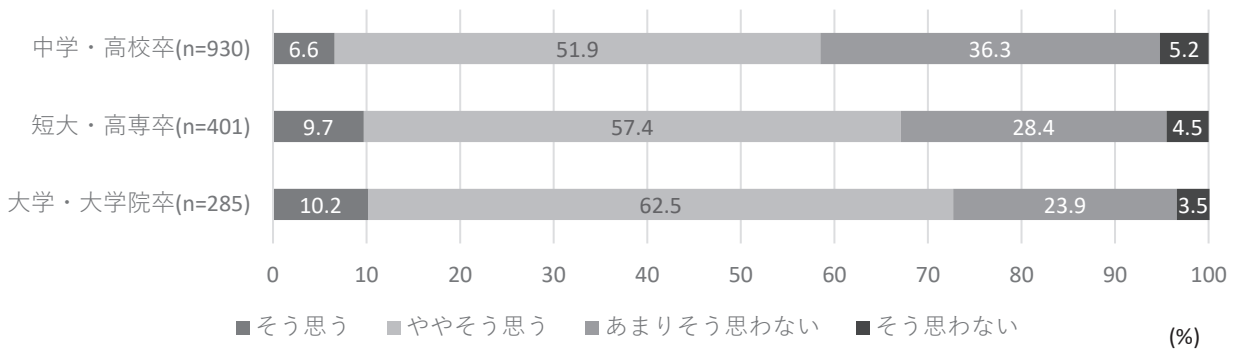
性別では、意識および意欲に比べて価値観との関連が多くみられ、概ね男性よりも女性のほうが健康への関心度は高い傾向にあった。年代別では12項目すべてにおいて有意差がみられ、いずれも年代が上がるほど健康への関心度は高かった。学歴別では、本人学歴は意識、両親の学歴は価値観の項目との関連が多くみられた。世帯年収別ではいずれもコストや収入にかかわる意欲および価値観の項目を中心に関連がみられた。そこで表III-3-1のうち、学歴別および世帯年収別の主なクロス表を以下に示した。連関の大きさを示す指標にはCramerのVを用いた。

まず、意欲に関する「健康のためにはある程度お金をかけてもよい」は本人と両親で共通して学歴が高いほど、また世帯年収が高いほど意欲的な傾向がみられた（図III-3-3～図III-3-6）。一方で、価値観に関する「健康よりも遊びや趣味が大切だ」は600～800万円未満をピークとして世帯年収が上がるほど肯定的な割合が増えるのに対し、800万円以上の層では世帯年収が上がるほど否定的な割合が増える傾向がみられた（図III-3-7）。また、「健康よりも仕事や収入が大切だ」は400～600万円未満までは世帯年収が上がるほど肯定的な割合が増えるが、600万円以上の層では異なる傾向がみられた（図III-3-8）。



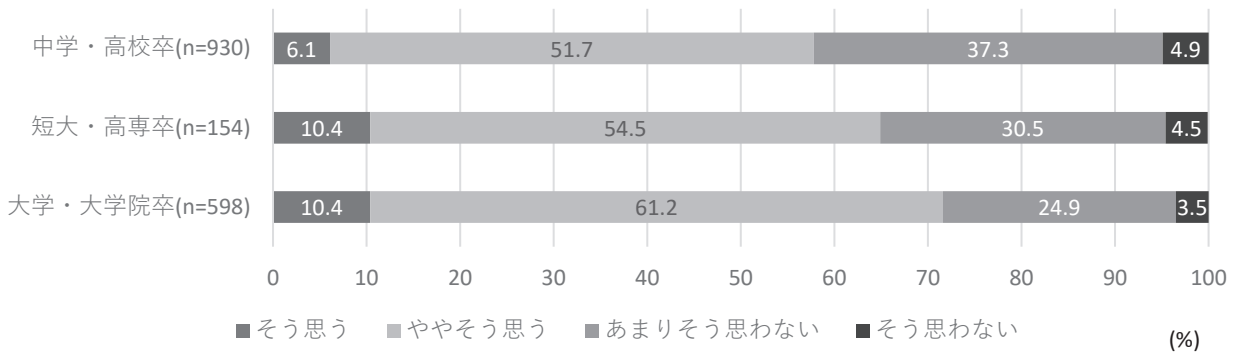
$\chi^2=59.7, df=6, p<0.001, V=0.109$

図 III-3-3 健康のためにはある程度お金をかけてもよい (本人学歴別)



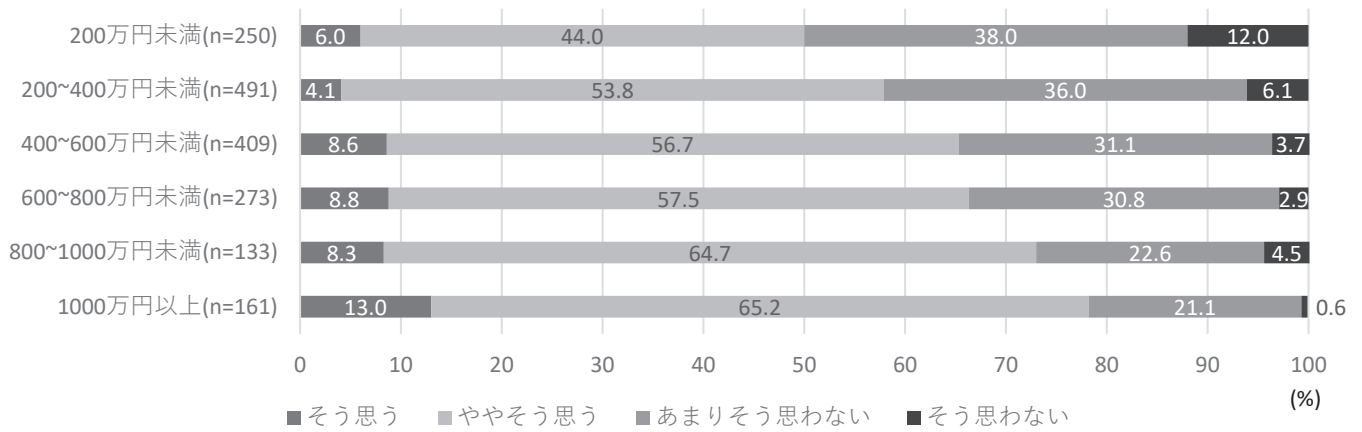
$\chi^2=27.8, df=6, p<0.001, V=0.083$

図 III-3-4 健康のためにはある程度お金をかけてもよい (母親学歴別)



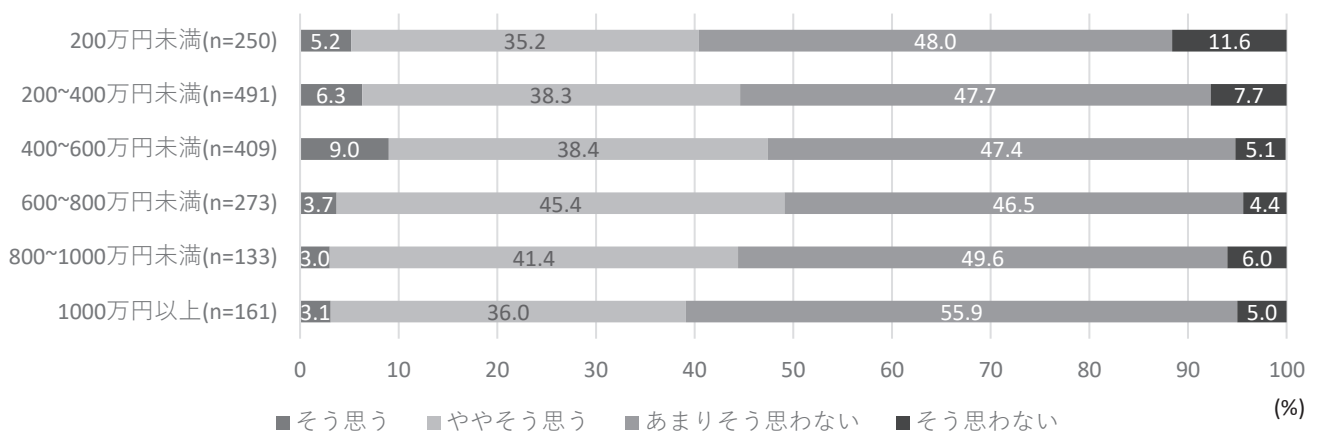
$\chi^2=38.2, df=6, p<0.001, V=0.098$

図 III-3-5 健康のためにはある程度お金をかけてもよい (父親学歴別)



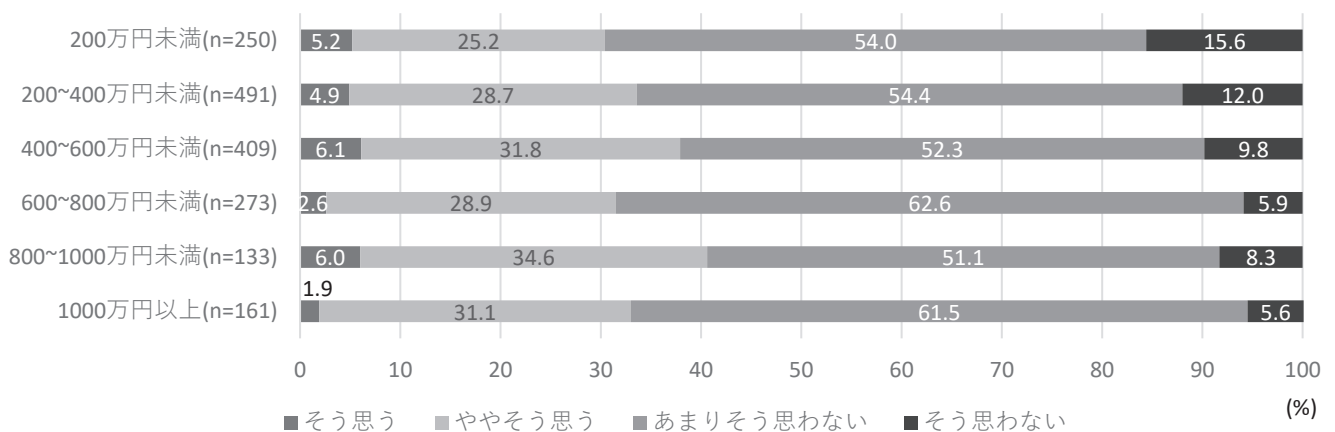
$\chi^2=77.1, df=15, p<0.001, V=0.122$

図III-3-6 健康のためにはある程度お金をかけてもよい（世帯年収別）



$\chi^2=34.5, df=15, p<0.01, V=0.082$

図III-3-7 健康よりも遊びや趣味が大切だ（世帯年収別）



$\chi^2=34.3, df=15, p<0.01, V=0.082$

図III-3-8 健康よりも仕事や収入が大切だ（世帯年収別）

IV 考察

1 健康無関心層の特徴とスポーツライフの実態

本研究では、健康無関心層の実態の把握に向けて健康関心度尺度を用いた量的調査を実施した。本調査では運動・スポーツ実施状況（行動変容ステージ）のうち無関心期が約4割を占めた。健康無関心層の実態について官公庁として初めて把握を試みた2019年の「国民健康・栄養調査」によれば、食習慣・運動習慣について改善への関心やその意向がない人は20歳以上の男女の3~4割に上る。一方、本調査では、健康関心度尺度の合計得点を3区分してみると中関心群が最も多く、低関心群に比べると高関心群のほうが多かった（図Ⅲ-1-4）。中・高関心群を合わせると9割を超えることから、健康関心度尺度を用いた本調査の結果によれば健康無関心層は少数派とみられる。厚労省の分析では食習慣や運動習慣の改善意思、すなわち行動レベルの意欲を基準として関心度を測定しているため単純に比較はできないが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあいまって、近年では意識レベルでの健康への関心度は高まっていると推察できる。

健康関心度尺度の合計得点の平均値をみると、属性的特徴として女性、高年代、高学歴のほうが高かった（表Ⅲ-2-1）。職業では専業主婦（夫）が最も高く、学生が最も低かった。また正社員は、非正規社員や自営・経営者よりも低かったが、ばらつきは正社員のほうが小さかった。生活習慣では、運動・スポーツ実施状況（行動変容ステージ）が高いほど高く、喫煙習慣がないほうが高かった。一方で、飲酒習慣の有無との関連は認められなかった。すなわち、健康関心度は性別や学歴、収入による影響を受けており、職業によっても差がみられるとともに、関心度が高い人ほど健康的な生活習慣につながる傾向にあった。

健康関心度尺度を構成する3つの因子得点の平均値をみると、性別による差は健康への価値観において大きく、健康への意識においては認められなかった（表Ⅲ-2-2）。年代でみると、健康への意識は30代、健康への意欲は50代、健康への価値観は20代でそれぞれ最も低かった。すなわち、健康への意識に性差はみられなかったが、価値観では男性よりも女性のほうが高い傾向にある。また仕事や育児に追われがちな30代では健康を意識する余裕がなく、加齢による心身への影響が顕在化しやすい50代では健康への意欲が低下し、相対的に健康リスクの低い10-20代では健康への価値観が高まりにくいといった年代差は、“無関心”に対する世代ごとの特性を反映した結果とみられる。一方、本人学歴でみると健康への意識および意欲は大卒以上のほうが高かったが、健康への価値観では大卒未満のほうが高く、世帯年収でみても健康への価値観は400万円以上800万円未満が最も低かったことからすれば、健康関心度と学歴や年収は単純な順相関関係ではないことがわかる。さらに具体的に、下位項目のクロス集計をみると、本人だけでなく父親や母親の学歴が影響しているものも散見されたことから、親の教育年数や本人の育った家庭環境によって健康への関心度、とくに価値観の形成過程に影響する可能性も示唆される。

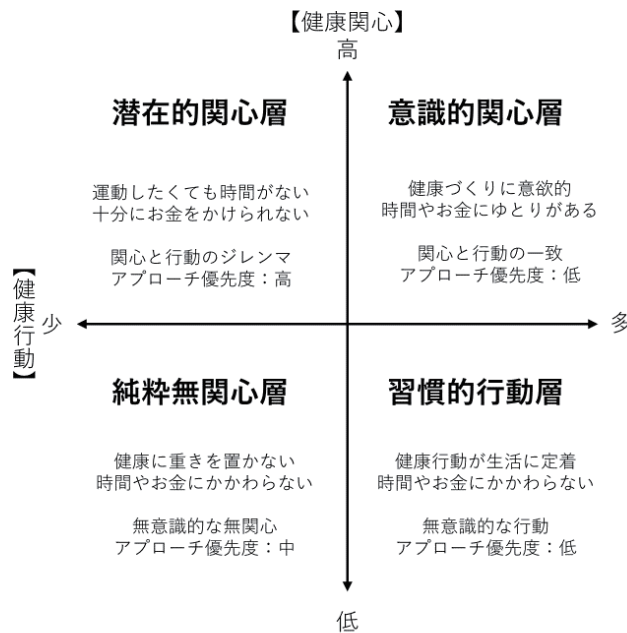
最後に、繰り返しになるが、運動・スポーツ実施状況（行動変容ステージ）のうち無関心

期が約4割を占めた。一方で、運動・スポーツの実施は健康意識の向上には寄与するが、意欲を高めたり、価値観の変容に至ったりするほどの影響はみられなかった。すなわち、健康への関心度を高めるためには運動・スポーツに留まらない、より多角的・多面的なアプローチを検討していく必要がある。具体的に言えば、運動嫌いの人や運動の必要性を感じていない人たちの実施率を上げるためには、どういった方法が適切かを考えること、彼らの潜在的なニーズに目を向けることが課題解決のヒントをもたらずはざである。

2 健康無関心層へのアプローチに向けた可能性

当財団のミッションである Sport for Everyone 社会の実現を前提として、健康無関心層を中心とした政策的アプローチの可能性についてまとめてみよう。2019年の「国民健康・栄養調査」によるデータを分析したところ、運動習慣改善の「意思なし」群は全体の37.6%に上る。また、男女ともに30代をピークとするが、男性では40代以降は30%台後半を推移するのに対し、女性では40代で大きく減少し60代が最も少ない。したがって、運動に関する行動変容の意思は、男性では40代以降大きく変わらないが女性では40代から意思のある人が大幅に増え、70代以上では性差がほぼみられなかった。また、運動習慣の定着の妨げとなる点について「忙しい」や「加齢」が挙げられており、女性においては「運動が嫌い」も目立った。

本調査結果における健康関心度の割合とは大きく差が開いていることを踏まえると、健康への関心は高いが運動習慣の定着には至っていないという意識と行動のパラドックスが実態として浮かび上がる。そこで健康関心と健康行動を軸とした4象限でカテゴリーを分けてみると、健康無関心層の中には“（健康のために）運動したくてもできない”というジレンマを抱えた潜在的関心層も一定数存在する可能性が高い（図IV-2-1）。こうした層に対しては、継続的に運動できる1）時間と2）場所の確保、そして行動変容のきっかけとなる3）機会の提供がとくに重要である。このうち1）時間の確保については、長時間勤務や保育環境の整備不足といった労働およびそれを取り巻く賃金格差や育児休暇取得のしづらさといったジェンダーの問題が挙げられる。また2）場所の確保については、公共施設利用の利便性や共有性の向上といった行政の問題が挙げられる。そして3）機会の提供については、潜在的関心層の場合、他の2つの条件が揃えば自発的に行動変容が起こる可能性もあるが、より促進する手段としてプログラムを検討・策定する価値がある。運動実施の人数は男女ともに個人の割合が高く、フィットネスクラブの24時間営業化などで勤労者の利用も増えつつあるが、運動習慣のない人や苦手意識のある人、また育児中の母親など、リーチしにくい層が存在する。継続性の観点からも運動・スポーツを通じた同性や同世代の親子コミュニティを醸成することによって、運動習慣だけでなく子育ての相談や悩みの共有、子ども同士の友達づくりといった副次的効果も期待できる。



図IV-2-1 健康関心と健康行動による4類型

当然ながら、社会経済的要因による健康格差の問題も大きい。本調査で使用した健康関心度尺度においても「健康よりも遊びや趣味が大切だ」や「健康よりも仕事や収入が大切だ」という項目が含まれているが、やはり、学歴や収入によって健康に対する価値観は左右されるようである。昨今の物価高騰の影響を鑑みれば、生活に対する経済的ゆとりは明らかに厳しくなっている。収入と価値観との関係には年功序列による高所得層の年代的な影響も考慮すべきであるが、生活水準の向上によって物理的および心理的欲求が満たされるためとも考えられる。逆に言えば、低所得層や子育て世帯は日々の生活を送ることに精一杯となり、健康の価値を考える暇すらないがゆえの無関心層、すなわち潜在的関心層としてとらえることが重要である。

さらなる課題として、健康への意欲も関心も持たない純粹無関心層へのアプローチを検討するとき、現代の健康概念の本質を考える必要に迫られる。健康であること (being healthy) と健康になること (becoming healthy) は本質的に意味が異なる。おそらく前者を望まぬ人はいないが、後者は必ずしも万人が望むとは限らない。したがって、彼らの行動変容を促すポイントは〈健康を目的としない〉ことにある。これまでの健康政策やヘルスプロモーションにおいては健康増進そのものが目的に掲げられることが多かったが、本来的には、健康とはそのものが目的ではなく、他の目的を達成するための手段であるはずである。にもかかわらず健康が目的化するという事は、それだけ現代社会において健康そのものの相対化が進み、健康への関心の有無にかかわらず、健康に生きることが難しくなっているという証左でもある。

誰一人取り残さない健康づくりの展開（Inclusion）と、より実効性をもつ取組の推進（Implementation）を掲げる「健康日本 21（第三次）」において、健康無関心層の行動変容は重要かつ難題の一つである。仮に健康関心度の低い人々がどういった特徴を有しているかを把握できたとしても、すぐに正しい答えや対策が導き出せるものではなく、あらゆる策を講じたとしても、行動変容を起こさない人々をゼロにすることも不可能である。しかし健康を目的ではなく手段としてとらえたとき、本調査の意義が見えてくるはずである。健康関心度の低い人々を直接的に健康にしようと努めるよりも、彼らが必要としているものやサービス、取り巻く環境や制度といった社会的要因を把握することによって結果的に健康状態の改善へとつながる方法を模索するほうが得策と考える。少なくとも無関心層とされる人々に対しては、一見すると回り道と思える方法でも着実に検討を重ねる必要がある。

運動やスポーツの実施はそれ自体が目的にもなり、また健康づくりをはじめ、さまざまな目的を達成する手段ともなり得る。本調査の結果から考察すると、Sport for Everyone 社会を実現する要素の一つとして、すべての人が運動やスポーツを自由に楽しむことができる環境が挙げられる。その実現には、運動やスポーツを目的として取り組む人たちだけでなく、それを手段として取り組もうとする人たちへのアプローチが今後はより重要性を増す。そこには、必ずしも運動やスポーツを好まない人が含まれることを忘れてはならない。また、健康の維持のための運動はもちろん、ボディメイクなど自己表現を目的とする人もいれば、交友関係を広げたい、子や孫と遊びたいなどスポーツを通じた他者とのつながりを目的とする人も少なからず存在している。健康無関心層や運動・スポーツ無関心層へのアプローチのヒントを探るには、健康や運動の手前にある彼らのライフスタイルやその先に求めているものへの想像力が不可欠である。

参考文献

厚生労働省(2020)「令和元年国民健康・栄養調査報告」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/eiyuu/r1-houkoku_00002.html (2023年12月26日アクセス)

厚生労働省(2023)「国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針」(厚生労働省告示第二百七号：令和5年5月31日)

<https://www.mhlw.go.jp/content/001102474.pdf> (2023年12月26日アクセス)

水野陽介(2023)「日本の健康政策過程における無関心層の問題化：『国民健康・栄養調査』にみる〈健康無関心層〉の実態」『上智大学社会学論集』47:87-102.

小澤千枝・石川ひろの・加藤美生・福田吉治(2021)「『健康無関心層』の把握に向けた健康関心度尺度の開発」『日本健康教育学会誌』29(3):266-277.

杉本九実・福田吉治(2022)「ポピュレーションアプローチの類型化：健康無関心層と健康格差の視点から」『日本公衆衛生雑誌』69(8):581-585.

付録 調査項目一覧

設問	項目タイトル	設問文・選択肢 ※マトリックス項目は表側番号を[]表記
Q1	性別	あなたの性別について、次のうち当てはまるものをお答えください。 1 男性 2 女性
Q2	年齢	あなたの年齢をお答えください。 () 歳
Q3	就業分類	あなたの現在の就業状況について、次のうち当てはまるものをお答えください。 1 正社員 2 契約社員 3 パートタイム・アルバイト 4 派遣 5 自営・経営者 6 無職・退職 7 専業主婦（夫） 8 学生 9 その他（ ）
Q4	食習慣	次の項目について、当てはまるものをそれぞれお答えください。 [1] 1日の食事時間はだいたい決まっている [2] 1日2回以上、主食（ごはん、パン、麺など）・主菜（肉・魚・卵・大豆製品などを使ったメインの料理）・副菜（野菜・きのこ・いも・海藻などを使った小鉢・小皿の料理）を3つ以上そろえて食べることがほぼ毎日ある [3] 朝昼夕の3食以外に、間食や甘い飲み物を摂取する習慣はない 1 はい 2 いいえ
Q5	飲酒頻度	あなたは週に何日位お酒（清酒、焼酎、ビール、洋酒など）を飲みますか。 1 毎日 2 週5~6日 3 週3~4日 4 週1~2日 5 月に1~3日 6 やめた（1年以上やめている） 7 ほとんど飲まない（飲めない）

Q6	飲酒量	お酒を飲む日は1日あたり、どれくらいの量を飲みますか。
		<ol style="list-style-type: none"> 1 1合(180ml) 未満 2 1合以上2合(360ml) 未満 3 2合以上3合(540ml) 未満 4 3合以上4合(720ml) 未満 5 4合以上5合(900ml) 未満 6 5合(900ml) 以上
Q7	喫煙状況	あなたはたばこを吸いますか。
		<ol style="list-style-type: none"> 1 毎日吸っている 2 時々吸う日がある 3 以前は吸っていたが、1ヶ月以上吸っていない 4 吸わない
Q8	運動・スポーツ実施状況	あなたのここ1ヶ月間の運動・スポーツへの取り組みについて、最も近いものを選んでください。
		<ol style="list-style-type: none"> 1 ここ1ヶ月間、運動・スポーツを行っていない。また、これから先もするつもりはない。 2 ここ1ヶ月間、運動・スポーツを行っていない。しかし、近い将来(6ヶ月以内)に始めようと思っている。 3 ここ1ヶ月間、運動・スポーツを行っている。しかし、週2回未満である。 4 ここ1ヶ月間、週2回以上、運動・スポーツを行っている。しかし、始めてから6ヶ月以内である。 5 ここ1ヶ月間、週2回以上、運動・スポーツを行っている。また、6ヶ月以上継続している。
Q9	運動・スポーツ実施時間	あなたが過去1年間に行った運動・スポーツは、1回に平均どのくらいの時間ですか。
		<ol style="list-style-type: none"> 1 15分未満 2 15分以上~30分未満 3 30分以上~1時間未満 4 1時間以上~2時間未満 5 2時間以上 6 行っていない
Q10	運動・スポーツのきつさ	あなたが過去1年間に行った運動・スポーツの「きつさ」が平均してどれくらいでしたか。
		<ol style="list-style-type: none"> 1 かなり楽である 2 楽である 3 ややきつい 4 きつい 5 かなりきつい

Q11 運動・スポーツ実施者 あなたが過去1年間に行った運動・スポーツは主に誰と行いましたか。

- 1 ひとりで
- 2 家族と
- 3 友人と
- 4 職場の人と
- 5 クラブ・同好会・チームの人と
- 6 その他（ ）

Q12 運動・スポーツ実施種目 あなたが過去1年間に行った運動・スポーツ種目を次のうちからすべてお答えください。

- 1 散歩・ウォーキング
- 2 ジョギング・ランニング
- 3 体操（軽い体操・ラジオ体操など）
- 4 筋力トレーニング
- 5 ヨガ・ピラティス
- 6 水泳
- 7 サイクリング
- 8 釣り
- 9 ゴルフ
- 10 ボウリング
- 11 その他（ ）

Q13 体力の自己評価 あなたはご自分の体力について、どのように感じていますか。

- 1 たいへん優れている
- 2 どちらかというと優れている
- 3 体力は普通である
- 4 どちらかというと劣っている
- 5 たいへん劣っている

Q14 運動不足感 あなたはご自分が運動不足だと感じていますか。

- 1 とても感じる
 - 2 少しは感じる
 - 3 あまり感じない
 - 4 まったく感じない
-

Q15	睡眠の質の自己評価	過去1ヶ月において、ご自分の睡眠の質を全体として、どのように評価しますか。
		1 非常によい
		2 かなりよい
		3 かなり悪い
		4 非常に悪い

Q16	主観的健康感	あなたは現在、健康であると思いますか。
		1 非常に健康だと思う
		2 健康な方だと思う
		3 あまり健康ではない
		4 健康ではない

Q17	健康関心度尺度	次の項目について、当てはまるものをそれぞれお答えください。
		[1] 私は健康への意識が高い方だ
		[2] 自分の健康に関する情報に興味がある
		[3] 健康状態の変化に気を付けている
		[4] 周りの人より私は健康を意識している
		[5] 健康のためにはある程度時間を割くべきだ
		[6] 健康のためにはある程度お金をかけてもよい
		[7] 健康を第一に考えて暮らしたい
		[8] 健康でいるためなら何でもする
		[9] 健康よりも遊びや趣味が大切だ
		[10] 健康よりも仕事や収入が大切だ
		[11] 病気を予防するより、病気になったら治療すればよい
		[12] 病気になったときだけ自分の健康が心配だ
		1 そう思う
		2 ややそう思う
		3 あまりそう思わない
		4 そう思わない

Q18	健康への全般的関心	<p>あなたは自分の健康についてどれくらい関心がありますか。</p> <p>※関心がないと思う方は「1」に近い数字、関心があると思う方は「10」に近い数字をお選びください。</p> <p>1 まったく関心がない</p> <p>2</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>5</p> <p>6</p> <p>7</p> <p>8</p> <p>9</p> <p>10 非常に関心がある</p>
Q19	<p>最終学歴</p> <p>(本人/母親/父親)</p>	<p>あなたの最終学歴／あなたの親（または保護者）の最終学歴について、次のうち当てはまるものをお答えください。</p> <p>[1] あなたの最終学歴 ※在学中の方は、在籍している学校種をお答えください。</p> <p>[2] あなたの母親（または保護者）の最終学歴</p> <p>[3] あなたの父親（または保護者）の最終学歴</p> <p>1 中学卒</p> <p>2 高校卒</p> <p>3 短大卒／高専卒</p> <p>4 専門学校卒</p> <p>5 大学卒</p> <p>6 大学院卒</p> <p>7 分からない／覚えていない</p>
Q20	世帯年収	<p>あなたの現在の世帯年収（税込み）について、次のうち当てはまるものをお答えください。</p> <p>※税金や保険料が差し引かれる前の金額をお知らせください。</p> <p>1 200万円未満</p> <p>2 200~400万円未満</p> <p>3 400~600万円未満</p> <p>4 600~800万円未満</p> <p>5 800~1000万円未満</p> <p>6 1000万円以上</p> <p>7 分からない</p>

健康関心度とスポーツライフに関する調査

2024年3月発行

発行者 公益財団法人 笹川スポーツ財団

〒107-0052 東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル3階

TEL 03-6229-5300 FAX 03-6229-5340

E-mail info@ssf.or.jp URL <http://www.ssf.or.jp/>

無断転載、複製および転載を禁止します。引用の際は本書が出典であることを明記してください。

本事業は、ポートルースの交付金による日本財団の助成金を受けて実施しました。

